

随想



二
題

精神の邂逅

中^{なか}嶋^{しま}嶺^{みね}雄^お

(東外大助教授)

「新進気鋭」だとか「昭和ニケタ世代」だとかおだてられていた私も四十歳になり、学生たちとはちょうど二十年前後の歳の開きがあるようになった。

今夜は、大学時代の同級生が二十名近く集まる機会があった。嬉しいことに、級友の一人で、A

紙外報部に勤める傑物T君がこのたび江戸川乱歩賞を受賞した祝賀の会であった。

今夜は、こうして久しく学窓の友と交わったが、たまたま今日の午後は私の大学の教授会で、地域学研究の大学院構想が急願久しく可決されたのである。

想えば、もう二十年近くまえ、私が学生の頃からの大学改革の方向がようやくにして芽を結びかけたのだから、今夜は私にとっても嬉しい夜であった。今は文相の永井道雄氏が『大学の庭』シリーズで、私の大学のこのような方向への模索に賛意を表して下さってからも、はや十数年になる。筑波大学のような新規大学ではない場合、大学改革とは、言うは易く、決まるは遅々たることかくの如し。今回の場合でさえ、教授会ではかなりの抵抗があり、私自身、薄氷の思いで奮戦せざるを得なかったのだから、一般には推して知るべしであろう。

このようなことがつづいた夜だったためか、ちょうど二十年まえ、信州からフトン一枚をかついで上京した学生当時のアパートを帰途たずねてみたい衝動に駆られた。その後どうなっているか一度探訪したいと思いがなかなか果たせなかった懸案である。大塚公園近くの、当時はハイカラなアパートもいまや老朽化していたが、ともかく形は昔のままに残っていた。

大塚といえは私には忘れがたい思い出の一駒がある。いまでは、私のゼミの学生など、しばしば

拙宅にも来るし、研究室ではしょっちゅう一緒に食事もし、春と夏には合宿旅行もするけれども、私の学生の頃は、当時の客観情況もあったのだろう、教師と食事をしたり、お茶を飲んで人生を語るなどということは皆無であった。こちらが学生運動に夢中で授業などには出ず、教師には近寄りがたかったからかもしれない。

ただ、そのなかで、当時、私の大学へ英語（一般語学）の非常勤講師で来ておられた先生があり、その教師は当時、教育大の専任だったと思うが、私はその先生にだけ大塚駅前のスタンド風の店で中華そば（当時は「ラーメン」より「中華そば」の方が一般的な呼称だった）をごちそうになったことがある。この先生は、私の大学の専任ではないのに、私の大学の将来の方向について静かに話し熱っぽく語りあってくれた。黒ぶちのメガネをかけた温顔で色白の若い教師であった。

私はこの教師の名前が覚えやすいので決して忘れることはなかったが、その教師こそ名著『日本語の論理』などの著者外山滋比古氏（現お茶の水大教授）の二十年近くまえの姿である。外山先生とは、日本文化会議その他でお会いする機会があ

るはずなのに、あれ以来一度もお会いしたことがない。あのとき、郷里の同窓生と二人で中華そばをごちそうになった私のことを外山先生が覚えて

いて下さるはずはないであろう。今夜、大塚駅前を巡って確認したら、その店はさすがに消え移っていた。

体質と血液型

福^か
富^{とみ}
達^{とおる}

(日本テレビ・
ニュースキャスター)

最近、永田町かいわいで「三共製菓株式会社」

という言葉がささやかれている。もちろん、本物の三共製菓のことではない。ロッキード事件で揺れる政局の中で、五月中旬に突然浮上した「三木首相引き降ろし工作」にからんで、三木首相の政治姿勢を追及する自民党内反主流派の動きに対し、日本共産党がいち早く『赤旗』を通じて「ロッキード隠しの陰謀を許すな」と、一見三木首相を擁護する論陣を張ったところから「三木と共産党の合作戦線」といった意味で「三共製菓」なる

言葉が生まれたものである。

ことほど左様にロッキード事件は、わが政界に深刻なカゲを落としているわけだが、とりわけ戦後三十年、保革合同らしい二十年たった保守政界の存立自体が問われる事態となったことは、日本の民主政治にとって重大な問題が提起されているといつてよい。三木政権生みの親である椎名自民党副総裁が、わずか一年半足らずで「三木引き降ろし」の仕掛人に早変わりしたことや、河野洋平氏ら六人のヤングパワーによる「保守新党」結成の

月刊

カレント

昭和五十一年
八月 号

通巻三八五号

目次

特別企画 保守再生への道を探る

保守政治への信頼回復を目指して……………小林正巳 (10)

党改革に血の汗を……………小宮山重四郎 (14)

政治不信解消の眼目を間違えるな……………近藤鉄雄 (17)

派閥を超えた結束、団結を……………渡部恒三 (20)

“密室政治”の追放が急務……………最上進 (22)

派閥次元の発想の超克こそ肝心……………グループ・カレント (26)

日本共産党の「自由病」……………竹内靖雄 (32)

想 精神の邂逅……………中嶋嶺雄 (38)

随 体質と血液型……………福富達 (40)

環境問題の曲り角

……………北條誠 (4)